

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0370900235		
法人名	社会福祉法人 つくし会		
事業所名	認知症高齢者 グループホームつくしの里		
所在地	〒029-0132 岩手県一関市滝沢字寺下2-1 (電話) 0191-23-0478		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年11月25日	評価確定日	平成21年2月6日

【情報提供票より】平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 10月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1		3名	要介護2		2名
要介護3		3名	要介護4		1名
要介護5		0名	要支援2		0名
年齢	平均	86.6歳	最低	75 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	昭和病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人つくし会では、グループホームを3箇所所有しているが、そのうち当ホームは、平成11年度に設置した県下でも早く整備されたホームである。周辺環境も良く、JR真滝駅に近く、隣接して同法人が経営する介護保険関連施設が立地し、研修や人的支援等の運営面で連携が図られている。近くには小学校や、保育園、児童館などがあり様々な諸行事に参加するなど交流を深めている。利用者ものびのびとした雰囲気の中で、表情も明るく穏やかに過ごしている。海外研修の機会もあるなど、内外研修参加と職員のスキルアップにはホームも積極的に支援し、全職員は前向きに一生懸命取り組んでおり、利用者の笑顔も絶えないホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での話題は、「運営推進会議を活かした取り組み」については、事務局の事業報告中心から委員の意見や提言等が徐々に発表されており、推進会議のねらいが活かされている。また、「チームで作る利用者本位の介護計画」は、平成20年度からいわゆるセンター方式を導入し、利用者の思いや意向を把握し、介護計画に活かすよう改善が図られている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	全職員が自己評価を記入し、その結果について職員会議で議論をするなど、評価の意義を理解するとともに課題の把握に役立てている。今回の自己評価で課題となった事項は「重度化への対応の在り方」で、これについては、早速、利用者・家族の意向等を確認するためアンケート調査を実施するなど、自己評価を活かしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	民生委員、行政組合職員、利用者及び家族を構成員とした運営推進会議は、2か月に1回定期的に開催している。会議内容は、活動状況の報告を中心とした傾向も見られるが、個々の出席者からの意見も出始め、徐々にではあるが、双方向の会議にしようとの姿勢がうかがわれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族等の不満、苦情等の外部者へ表せる機会の仕組づくりは“大切なこと”であるとの認識からオンブズマン制度を導入している。なお、家族等から意見等があったときは、職員で話し合いを行いケアプランに反映するようにしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	お祭り奉納の行事や、滝沢小学校の学習発表会や運動会などに出かけ交流を図っているほか、近隣の児童館に向き、子供たちと一緒に楽しんだりしている。また、散歩など外出時には、地域の方々と声がけをして地域に溶け込むようにしている。

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者主体の普通の暮らしがあること。」「個人の人権が保護され、その人らしい生活が日常の暮らしの中でできること。」「地域の中のグループホームとして、地域住民と共生できるホームであること」を独自の理念としてつくりあげ、その理念を玄関などに掲げ、職員や利用者に見えるようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践と共有を図るため、「チームケアによる支え」「個々人の尊厳を重視したケアの充実」「時代の要請に応じた家(ホーム)づくり」を目標と定め、日常のミーティングなどで確認し合いながら目標に沿った生活支援を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭り奉納の行事や、滝沢小学校の学習発表会や運動会などに出かけ交流を図っているほか、近隣の児童館に出向き、子供たちと一緒に楽しんだりしている。また、散歩など外出時には、地域の方々と声がけをして地域に溶け込むようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価を記入し、その結果について職員会議で議論をするなど、評価の意義を理解するとともに課題の把握に役立てている。今回の自己評価で課題となった事項は「重度化への対応の在り方」で、これについては、早速、利用者・家族の意向等を確認するためアンケート調査を実施するなど、自己評価を活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、行政組合職員、利用者及び家族を構成員とした運営推進会議は、2か月に1回定例的に開催している。会議内容は、活動状況の報告を中心とした傾向も見られるが、個々の出席者からの意見も出始め、徐々ではあるが、双方向の会議にしようとの姿勢がうかがわれる。	○	運営推進会議は、地域交流の橋渡し役として、地域で支える仕組みづくり(災害や防災対策等)など、構成員の人脈を生かすことなどにより、運営推進会議の存在意義が活かされることから、様々なテーマ等を設定し、自治会長や防犯関係者の参画をお願いし、いろいろな方々からの意見、提言等をお願いすることも一考である。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外において事業所は、市との行き来が少ないことから、今後はホームの実情やサービス提供するうえで生じる課題等について情報提供や意見交換を行いたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホームの行事予定を送付するときに、担当者が記述した利用者の健康状態や、生活状況等についてもお知らせしている。また、旅行や敬老会等で利用者が楽しんでいる写真のほか、やわらかい手書きの文面で製作した広報「つくしだより」(年4回)で日常活動の状況をお知らせしている。なお、金銭管理状況も毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の不満、苦情等の外部者へ表せる機会の仕組づくりは大切なことであるとの認識からオンブズマン制度を導入している。なお、家族等から意見等があったときは、職員で話し合いを行いケアプランに反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・離職は極力抑えるように配慮し、馴染みの職員によるケアを行っている。なお、平成20年度は異動対象者はいなかったが、産休する者があり、この場合も馴染みの職員をサポートにつけるなどの配慮をするともに、広報で家族にお知らせしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に積極的に参加するとともに、海外研修のほか、各種の外部研修にも順番で参加するようにしている。また、資格取得についても受講料の支援をするなどスキルアップについて積極的に推奨している。その結果、全職員が2級ヘルパーを取得している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会の例会に参加するほか、地区ブロック内で行う研修、交流や、法人内の3か所のグループホームが相互訪問してお互い課題となっている事項について意見交換するなど、職員各々が研鑽に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅を訪問し利用者家族の意向を聞いたり、ホームの雰囲気を説明したりする他、利用者の不安を解消するため、10日から3週間程度の「お試しの入居期間」を設け、徐々に馴染んで貰ったうえで契約するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	菰の枝を使った「かほう団子づくり」や「縄を綯う」「正月行事の飾りつけ」等を教えてもらったり、すいとんや餅づくり、干し柿づくりなど、昔を懐かしみ、皆でつくる喜びを味わいながら過ごし、学び、支え合いを大切にしている。また、戦時中の空襲や苦労話、更には夫を亡くした悲しみを聞くなど、利用者個々の思いを大切に過ごしている様子がうかがわれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	平成20年度からセンター方式を導入し、会話によるコミュニケーションが難しい利用者の思いや意向等の把握に力を入れている。その結果、利用者の表情やしぐさ等から本人の意向に少しではあるが近付いているという認識にあり、大きな効果があったとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向等に基づき担当者を中心に大枠の支援方向を組み立て、それをもとにケアマネとの検討や、カンファレンスを行い、職員全体で話し合いを実施、さらに利用者・家族の意向を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月ごとに実施している。また、毎月カンファレンスやモニタリングを実施しているが、状況変化が認められたときは、その都度、検討し修正するなど、現状に即した見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族から「冠婚葬祭へ出席したい」「理美容に行きたい」「お医者さんに行きたい」などの要望があったときは、柔軟に同行支援をしている。なお、近隣からホームに入居した利用者が、かかりつけ医に通院するときは、家族に同行をお願いしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療を必要とする時は、かかりつけ医への受診を基本としている。なお、病院を変更したり、新規利用の場合は、家族に相談し、了承を得たうえで受診の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期等の取り組み支援に関する説明を家族にしているが、アンケート調査では、まだ十分な理解が得られていないことが分かったとしている。ホームとしては、今後とも重度化や終末期の対応のあり方について説明し理解を得ると共に、職員にも取り組み方針の共有が大切としている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を損ねないよう言葉づかいにお互い気をつけ合い、また、トイレや入浴する時もさりげない声かけで誘導するなど、プライバシーに配慮している。なお、個人記録等については、書庫に管理するなど個人情報の取扱に注意して対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を大切にしており、起床や朝食の時間は自由で、利用者のペースを大切に、個々人の生活リズムを壊さないように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、入居者から聞いたり、料理雑誌の写真をしながら食べたいものを話し合うなど入居者の好みや季節料理を考え、利用者と相談しながら決めている。食材は、入居者3～4人と職員が近くのスーパーに出かけ買っている。職員と利用者が一緒にテーブルを囲み会話をしながら食事し、後片付けは、利用者それぞれの役割の中で行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日曜日以外は毎日入浴できるが、利用者の体調や入浴時間帯(14時～18時)等の希望を聞きながら支援している。車いすの方には、2人係りで介助方法や介護補助用具をうまく使いながら対応し、入浴を安心して喜んでもらえるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	小さなことでも役割や楽しみごとを見つけて支援することを基本として取り組んでいる。得意とする生け花、鉢植え世話、裁縫等をしたときは、利用者と一緒に誉め、感謝の言葉をかけるようにしている。また、楽しみや気晴らしとして民謡等の音楽を聴いたり、相撲などのテレビ観戦、道の駅へのドライブなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごさず、気分転換等を図るために、本人の希望に応じホーム周辺の散歩やドライブに出かけている。また、買い物等も一日おきに出かけており、全く外出しない人がいないようスケジュールを組みながら支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をかけておらず、出入りは自由である。利用者を見守りする中で、外出の雰囲気が見られるときは、さりげなく声がけをしたり、また、外出したときは止めないで、利用者の後ろからついていき、安全面で支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一関地域で発生した地震に呼応し災害対策は重視しており、地震や夜間の災害を想定した避難訓練を6回実施している。訓練には住民、消防署(団)、消防協力隊などの協力を得て実施しており、訓練の回数を重ねるごとに対応の時間短縮が図られ、効果をあげている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食一人一人の摂取状況を記録し、職員が情報の共有をするとともに、水分摂取が困難な利用者には1日の水分量が確保できるよう支援している。また、隣接する法人内の特養ホームの管理栄養士に献立や栄養面を見てもらっている。なお、季節の食材の利用や食習慣に配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールなどには、生け花や写真、利用者が共同制作した切り絵等が飾られ、共用の空間には、日が差し込み、暖かい生活感が感じられ、時には1人で過ごすことができ、また、時にはみんな楽しく過ごせるようコタツやソファなどが配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お裁縫の道具や生け花の鉢など、使い慣れたものなどを持ち込み、日々の生活に活かし楽しく過ごしている。また、お位牌を持ってきている方もおり、毎日供養しながら落ち着いた居心地良い日々を過ごしている。		